

---

**研究資料**

---

**鳥取県における林業就労者の労働条件に関する意識調査**山 本 勝 範<sup>\*</sup>小笠原 隆 三<sup>\*</sup>**Public Opinions regarding Working Conditions  
of Forestry Worker in Tottori Prefecture**Yoshinori YAMAMOTO <sup>\*</sup>Ryuzo OGASAWARA <sup>\*</sup>**I はじめに**

近年、国産材の安定供給の担い手である林業就労者は、労働力需給構造の急激な変化にともない、他産業と比較して就労条件が相対的に低下し、新規雇用者が激減しているなどから年々高齢化が進んできている、このままの状況で推移すれば、これからの国産材生産の確保及び国土保全・水源かん養など森林の持つ様々な公益的機能の発揮に支障が生じることも懸念されてきている。

このような中で若手労働力を育成し、地域における労働力を安定的に確保することが必要であり、特に、事業の安定・生産性の向上を図ることが急務となっている林業界の現状を考えた場合、労働力確保対策を早急に講じることが必要だと考えられる。

また、近年の女性の職場進出がとりざたされている今、林業においても女性の働きやすい職場とするためにも就労環境を整える必要があると考えられる。

本研究は現在林業に従事している就労者の就労事情を調査し、分析し労働力確保のための施策を行なう場合の参考にしようとするものである。

本調査が今後、林業就労者の確保のために活用され、国産材の安定した供給及び、森林のもつ公益的機能の発揮に寄与することができれば幸いである。

本調査を行なうに当たり、ご協力を頂いた鳥取県森林組合連合会及び鳥取県の森林組合作業班の方々に厚く御礼を申し上げます。

---

\*鳥取大学農学部 森林生産学講座

Department of Forestry Science, Faculty of Agriculture, Tottori University

## II 調査地及び調査方法

調査地は鳥取県のほぼ全域を占めるとと思われる9つの森林組合の管轄する地域である。(図1) ただし、鳥取県には12の森林組合が存在するが、本調査では年末一時金助成事業に加盟する9つの森林組合を対象を限定した。

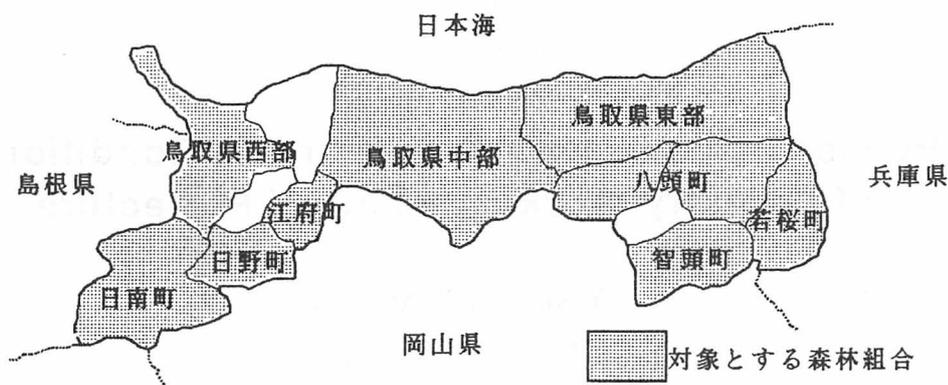


図1 調査対象地

調査方法は鳥取県内にある9つの森林組合に従事する労務班員(417名)の全員に就労事情に関する意向調査を郵送により行なった。

その結果、回収率64%に当たる267名(男性:206名,女性:61名)より意向調査の回答を得ることができた。

得られたデータの回答者の年齢の分布状況は次の図2のとおりであった。回答者の大半は50才代, 60才代であり, また, 女性の割合が男性に比べて極端に少ない結果となった。

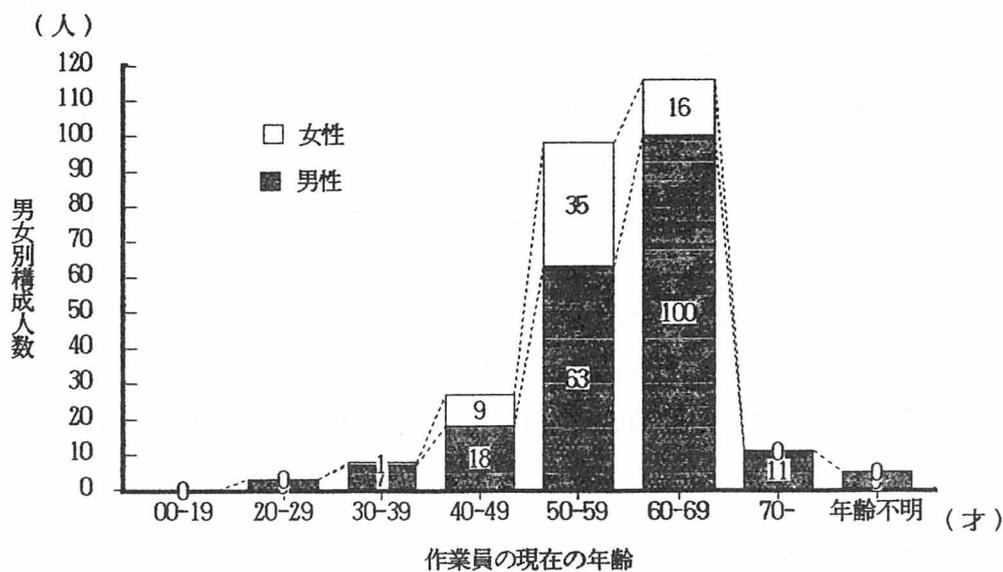


図2 男女別の年齢構成

### Ⅲ 結 果

#### 1. 林内作業に対する就労者の意識

『作業を行なっていていちばん不快に感じる時はいつですか。』という質問に対しての回答は図3のようである。作業中、いちばん不快に感じる時を、降雨時であると答えた人は全体の52%でいちばん多く、次いで暑いとき（45%）・積雪時（35%）・寒い時（34%）・重労働時（24%）・強風時（22%）・単純作業時（2%）の順であった。降雨時、暑い時、積雪時、寒いときの4状態は重労働時よりも不快感をいだく人が多いことより、天候の悪化によって及ぼされる人体への不快感は重労働による肉体的疲労の不快感よりも強いとも考えられる。特に降雨の時がその程度が最も高いように思われる。日本、特に日本海側においては、雨天下の作業はある程度は避けられないものである。雨天時には作業は中止というのでは作業時間は十分にはとれず、就労者の安定した収入をもたらさなくなってしまう恐れがある。また、雨天の場合には不快を感じるのみでなく作業の危険性が増すことも考えられる。雨天時などの不快感や危険性を解消させる技術の開発が早急に必要であると考えられる。

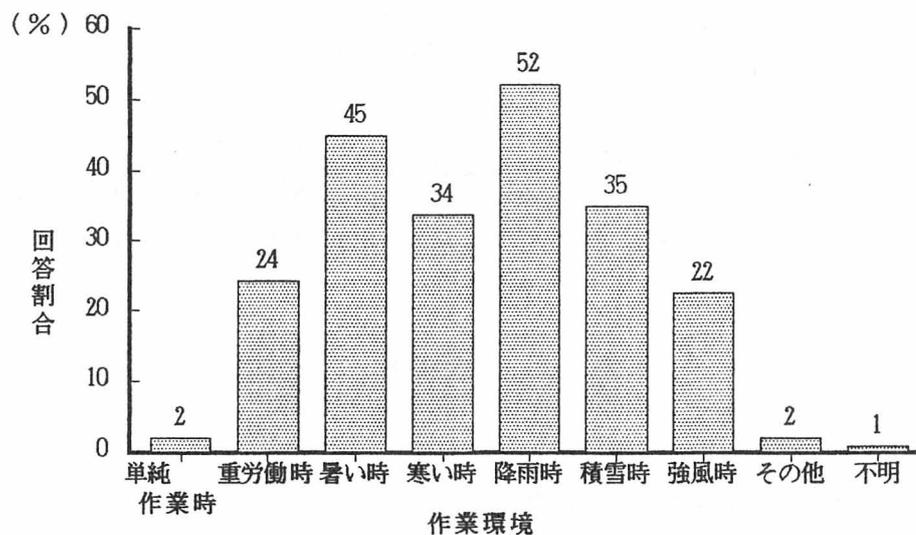


図3 作業を行なっていていちばん不快に感じる時はいつですか  
(複数回答)

#### 2. 林内作業における3K意識と楽しさ

林内作業における3K意識、すなわち、きつい、危険、汚い（汚れ具合）、及び作業の楽しさについて各林内作業別にその各作業の担当者を対象に質問を行なった。その結果は図4から図7のようになった。ここでの林内作業とは、苗畑作業、植林作業、下刈り作業、間伐作業、枝打ち作業、伐木作業、造材作業、集材作業、運材作業、土木作業の10種類の作業に区分したものである。

(1) 各作業のきつさについて

『各作業についてどのように感じていますか』という質問の回答は図4のようになった。きついと答えた人の割合が特に多かった作業は下刈り作業（68%）・伐木作業（59%）・枝打ち作業（48%）であった。きついと答えた人の割合が少なかった作業に苗畑作業（13%）があった。どの作業も楽であると答えた人はわずか数パーセントに過ぎない。しかし、普通と答えた人の割合は下刈り作業（27%）・伐木作業（23%）・枝打ち作業（42%）を除いた作業では、きついと答えた人の割合よりも多い。しかしながら、これらのことから、苗畑作業以外の作業は楽しいものでなく、きついとみる人が多いようだ。

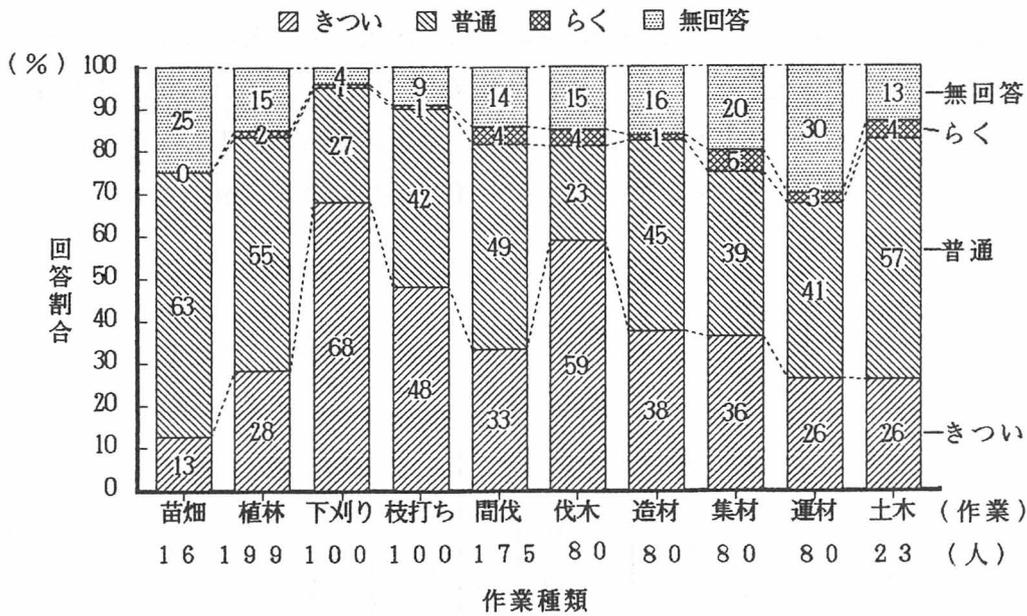


図4 林内作業におけるきつさの回答

(2) 各作業の危険さについて (図5)

危険と答えた人の割合が多かった作業は、伐木作業（84%）・枝打ち作業（78%）・下刈り作業（70%）であり、その他にも集材作業（68%）・間伐作業（61%）・造材作業（59%）・運材作業（51%）があり、いずれも50%を超えるものであった。それに対して、苗畑作業（0%）・植林作業（13%）・土木作業（17%）は危険と答えた割合が低く、安全と答えた割合が苗畑作業（44%）・植林作業（21%）・土木作業（13%）は他の作業と比較して高い。大部分の作業は危険と考える人が安全と考える人よりも多く、苗畑作業と植林作業のみが危険と答えるより安全と答えた人が多かった。林業における作業は、苗畑作業や植林作業を除いては危険の多いものとみているようだ。

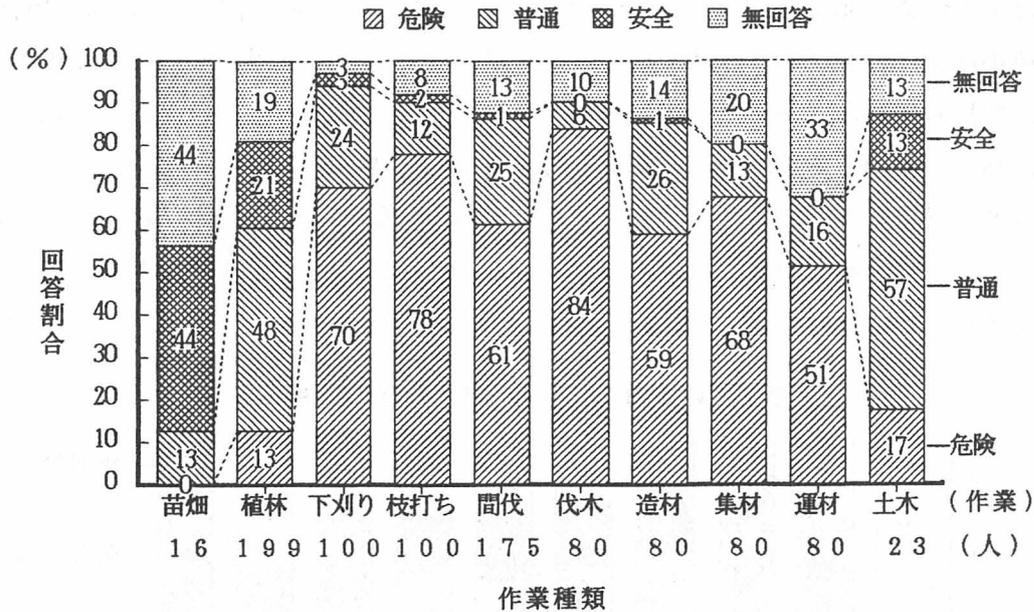


図5 林内作業における危険の回答

## (3) 各作業の汚れ具合について (図6)

汚れると答えた人の割合が特に多かった作業は伐木作業 (71%)・下刈り作業 (63%) があり、低いものに苗畑作業 (31%)・運材作業 (38%) があった。逆に汚れないと答えた人の割合は苗畑作業 (6%) が最も高く、6%から0%の間でどの作業も低いものであった。全ての作業で汚れると答えた人が圧倒的に多い傾向を示した。林内作業は全般的に汚れるとみているようだ。

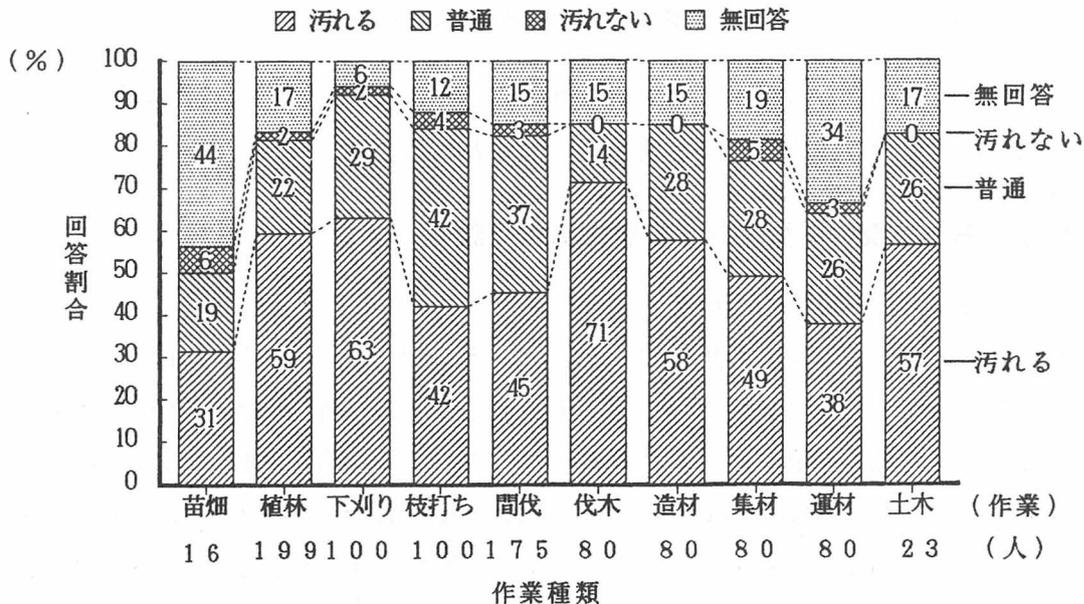


図6 林内作業における汚れの回答

## (4) 各作業の楽しさについて (図7)

楽しいと答えた人の割合が最も高い作業では枝打ち作業 (20%) があり、その他の作業も12% (間伐作業) から5% (植林作業) の間にありどれも低い。逆に楽しくないと答えた人の割合の

高い作業には土木作業（30%）・下刈り作業（27%）があり、その他の作業でも19%（集材作業）から13%（苗畑作業）の間にあり、林業における作業が楽しいものと思っている人は極めて少ない。しかし、枝打ち作業については、楽しくないと答えた人よりも、楽しいと答えた人の割合のほうが高く、林内作業中いちばん楽しい作業と考えられる。また、全ての作業で楽しくないと答えた人より普通と答えた人の割合のほうが高いことから、一般的には林内作業は楽しくないものと思っているより普通とみているようである。しかし、今後、なるべく作業が楽しくなるような改善が是非望まれる。

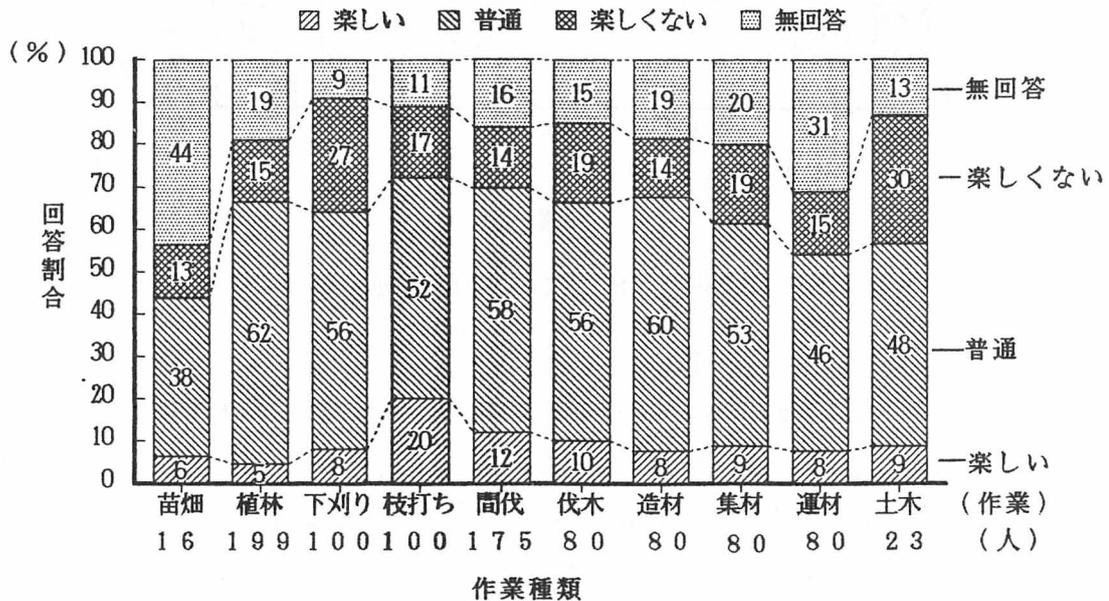


図7 林内作業における楽しさの回答

以上、林内作業を総合してみると3Kであるといえるだろう。これら3K作業を少しでも解消することが就労者の労働環境の改善の重要な点だと思われる。

### 3. 林業における女性就労に対する就労者の意識

#### (1) 女性が作業を行なうことについて

『女性が作業を行なうことをどう思いますか』という質問に対する回答は図8のとおりである。女性が作業を行なうことに賛成であると答えた人の割合は男性で41%、女性で31%と男性の方が賛成と答えた人の割合が高い。また、反対であると答えた割合は男性で16%、女性で10%と女性の方が反対と答えた人の割合が低い。男性の場合には、賛成と答えた人（41%）のほうがわからないと答えた人（38%）よりも多い。そして女性の場合では、わからないと答えた人が女性全体の56%ととても多く、賛成か反対か決めかねる人が多い。しかし、賛成数と反対数を見る限りにおいては3倍程度賛成数のほうが多い。

#### (2) 女性が作業を行なうことに賛成した理由

女性の林業就労について賛成であると答えた人のその賛成理由は図9のようになった。男性の

場合の賛成理由では作業現場が明るくなるから（55%）がいちばん多く、次いで、能率が上がる（22%）、男女平等だから（18%）、嫁問題が解消するから（5%）であった。他産業と比較しても女性の進出が遅れていると考えられる林業において、男性では、特に女性によって現場を明るくしてもらいたいと考えられていると思われる。また、これは能率が上がるという点と無関係ではないようだ。農山村で問題視されているはずの嫁不足という点では、男性の大半が高齢者であるためだろうか、あまり関心がない。女性の場合では、男女平等であるから（47%）という理由がいちばん多く、次いで、現場が明るくなる（37%）、能率が上がる（21%）、という順であった。男女平等が叫ばれる今、女性も林業がやりたいと考える人のあるのは当然のことであり、女性の働きやすい職場を作り出すことはとても必要だと思われる。

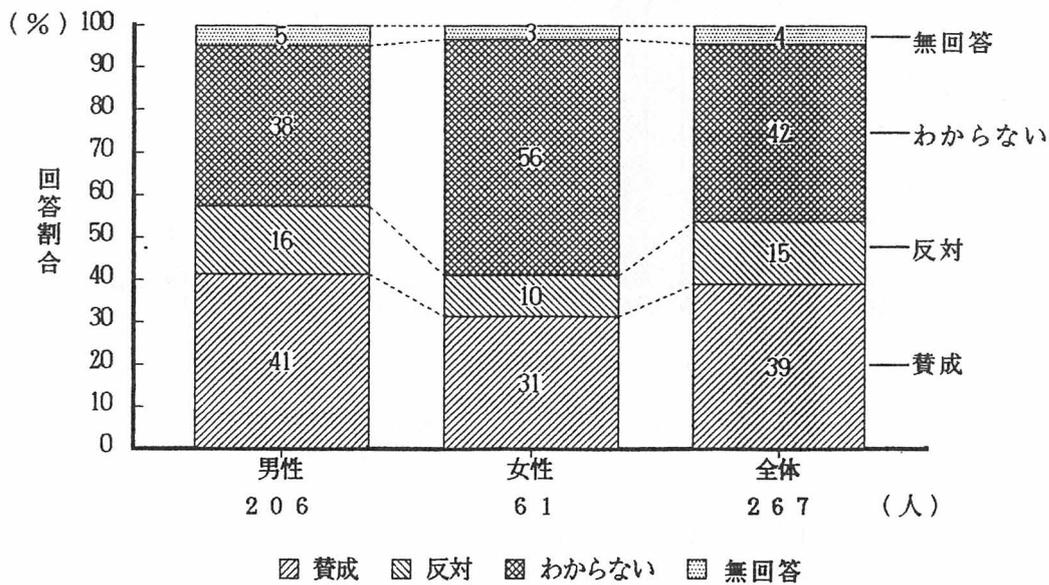


図8 女性が作業を行なうことをどう思いますか

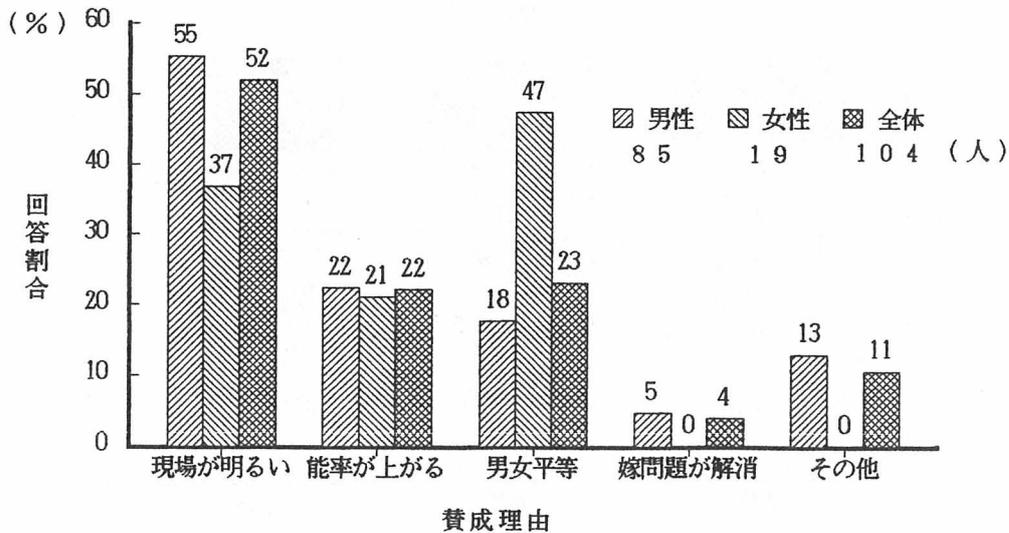


図9 女性が作業を行なうことに賛成である理由 (複数回答)

(3) 女性が作業を行なうことに反対した理由

女性の林業就労について反対であると答えた人のその反対理由は図10のようになった。男女ともに最も高い割合を示したものは作業が危険であるから（男性の場合：79%，女性の場合：83%）という理由である。ただ女性の場合には仕事がきつい（50%）という理由も高い割合を示した。女性の林業就労の妨げとなっているものの一番の原因は作業が危険であることではないだろうか。次いで、作業がきついということもあげられる。

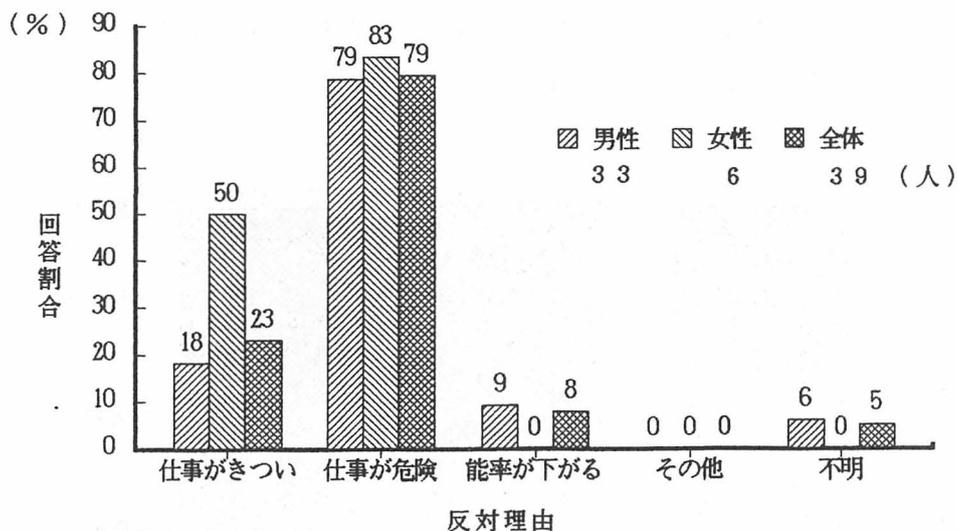


図10 女性が作業を行なうことに反対である理由 (複数回答)

(4) 女性にとって有利な作業と不利な作業の有無

林業労働を行なう場合、男性よりも女性の方が有利な作業はありますかという質問に対する回答は図11のようであった。全体の59%の人が有利な作業はありと答え、ないと答えた人の人数

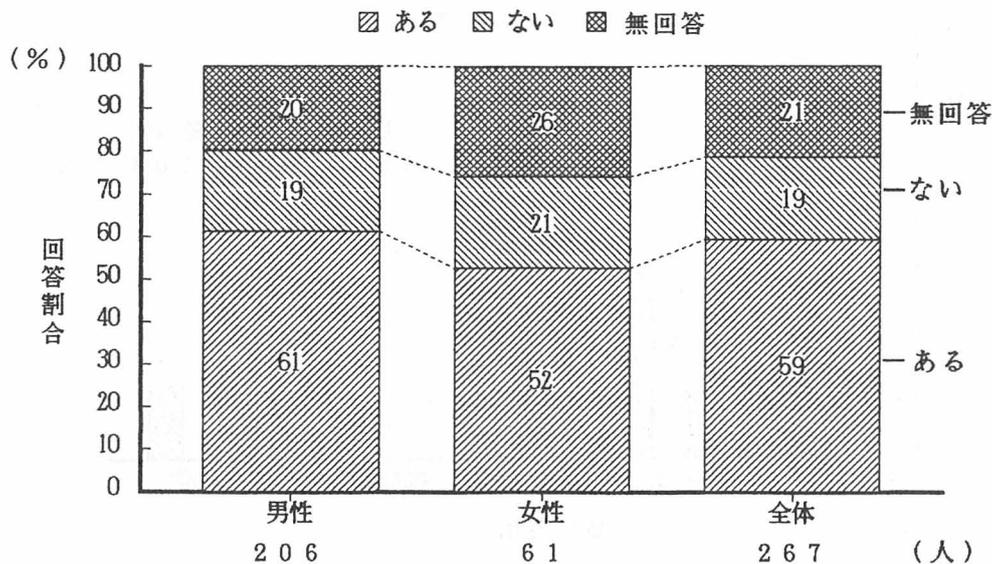


図11 男性よりも女性の方が有利な作業はありますか

の3倍程度あった。これを男女別にみてもほぼ同様であり、あまり違いはみられない。ただ、男性のほうが若干女性の有利性を認めている度合いが高いように思われる。また、男性よりも女性の方が不利な作業はありますかという質問に対しての回答は図12のようであった。全体の76%の人が不利な作業はありますかという質問に対しての回答は図12のようであった。全体の76%の人が不利な作業はありますかと答え、ないと答えた人の人数の11倍程度であった。これも男女別にみても、ほぼ同様であり、男女間の違いはみられない。女性にとって有利な作業はありとみられていることから、分野によって女性がその長所をいかせることは十分考えられる。しかし、女性に不利な作業はありとみられていることも確かであり、一層の改善が望まれる。

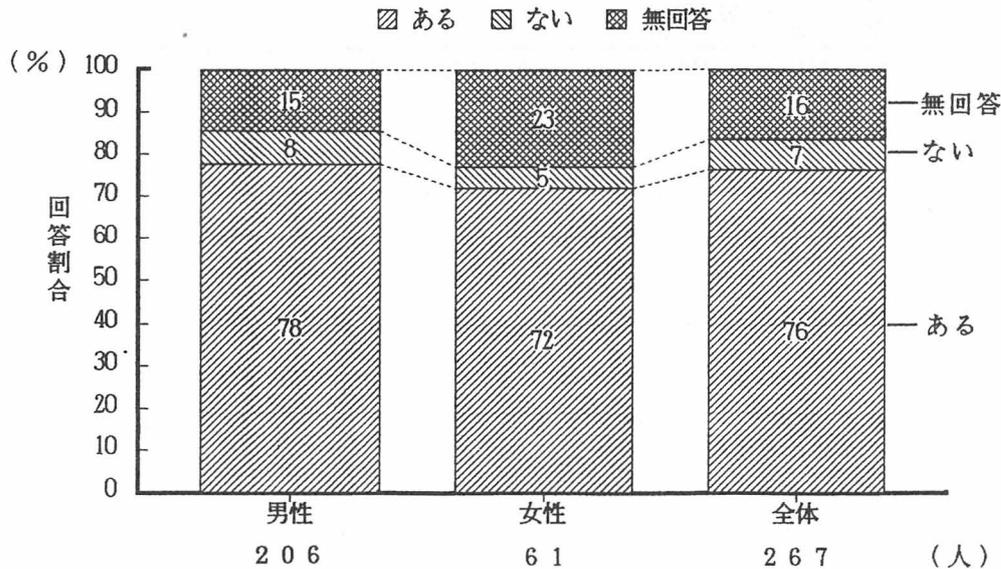


図12 男性よりも女性の方が不利な作業はありますか

#### (5) 女性の方が男性よりも有利な作業

女性の方が男性よりも有利な作業はありと答えた人のその具体的な作業については図13のようであった。有利な作業として苗畑作業(78%)と答えた人が圧倒的に多く、次いで植林作業(43%)・下刈り作業(21%)がその割合が高く、その他の作業についてはわずか数パーセントの割合に過ぎない。これを男女の回答者別に比較してみると、苗畑作業(男性:80%,女性:69%)では男性の方が女性を高く評価し、植林作業(男性:41%,女性:50%)と下刈り作業(男性:19%,女性:28%)については女性の方が女性を高く評価する傾向がみられた。苗畑作業・植林作業は、比較的きつくない、危険でない作業とされているため女性に有利な作業とみなされるものであろう。また、苗畑作業・植林作業は比較的丁寧な作業が要求されると考えられるが、そうしたことも関係しているだろう。また、下刈り作業については比較的きつくて危険とみられているにもかかわらず、特に女性の方に有利とみられている。これも原因についてはわからないが、注目すべき点だと思われる。

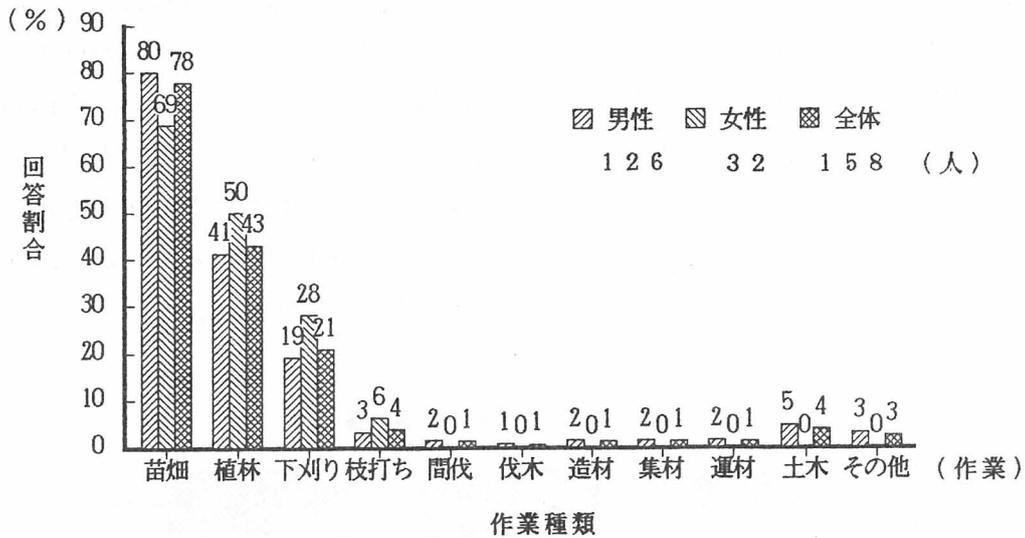


図13 女性の方が有利と答えた作業 (複数回答)

(6) 女性の方が男性よりも不利な作業

女性の方が男性よりも不利な作業があると答えた人のその具体的な作業については図14のようであった。

不利であると答えられた作業でその割合の高いものは間伐作業 (72%)・伐木作業 (65%)・枝打ち作業 (64%) があり, 不利と答えられた割合の低い作業に苗畑作業 (3%)・土木作業 (16%)・植林作業 (17%)・下刈り作業 (31%) がある。これを男女の回答者別に比較すると, 男性の回答者では間伐作業・伐木作業といった伐倒作業が特に高い割合なのに対し, 女性回答者では運材作業・集材作業といった大型機械を使用する作業が高い割合となる傾向があった。男性の意見では, 特に女性の不利な作業に間伐作業・伐木作業という伐倒作業や, 枝打ち作業という高所で行なう作業を不利とみており, これらは特に危険とみられているため, その理由で女性に

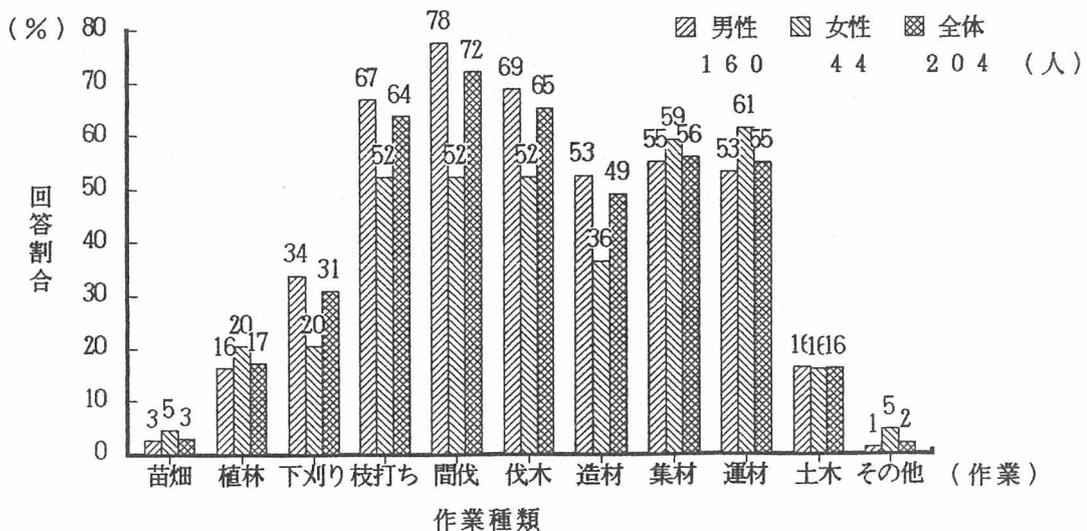


図14 男性よりも女性の方が不利と答えた作業 (複数回答)

は不利とみているとも推測できる。また、女性の意見では特に運材作業・集材作業という大型機械を使用する作業を不利とみており、女性は大型機械の操作の面で不利とみているとも考えられる。

以上のことより、女性が林業を行なうことについて、林業就労者は基本的には賛成であるといえる。女性の賛成意見の大部分を占めた男女平等であるという女性の権利の主張も尊重されなければならないものである。そして、男性の賛成理由に多かった、作業現場が明るくなるからという意見もとても重要である。それは作業現場の雰囲気が暗いものであっては、就労者の気分は低下し、作業能率の低下などにつながる可能性も考えられる。就労者が活力をもって仕事をするためには女性とともに仕事をするという現場の雰囲気はとても大切なことである。また、女性の方が有利であると考えられる作業は男性、女性とも苗畑作業と植林作業であるとみており、そのほか女性の方からは、下刈り作業も有利な作業であるとみている。これらの作業は女性の長所をいかせるものであろう。女性の方が不利であると考えられる作業はそれら以外の作業ということになるのではないだろうか。今後は女性に有利な分野のみならず、他の分野においても労働環境の改善をし、より女性の進出をはかることが必要であろう。

#### 4. 林業就労条件に対する就労者の意識

##### (1) 若手労働力の確保

『若者が専業として林業を行なう場合、必要と思われる労働条件は何ですか』という質問に対する回答は図15のようである。若者が林業を専業として行なう際、必要不可欠な労働条件についての質問に対し保険・保障の充実であると答えた人は就労者全体の70%を占めていた。これは現在の労働条件において、特に保険・保障の面での頼りなさからくる、最も不満を感じていることのあらわれであろうと考えられる。その次に多かった条件は安定した収入の確保（56%）であり、高収入の確保（40%）よりも多い。このことは冬季には仕事がないため、その期間の林業

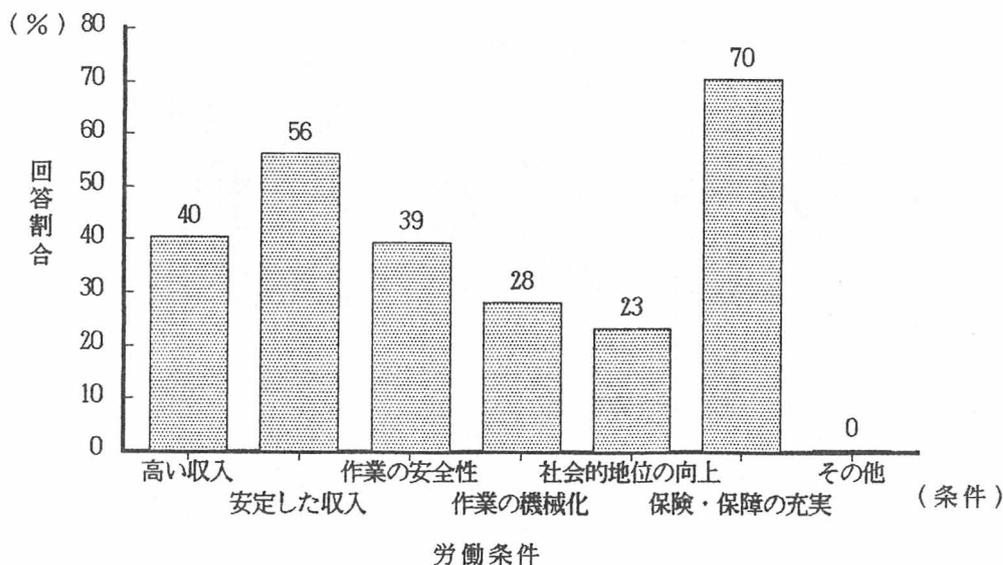


図15 若者が林業を行なう場合、必要と思われる労働条件  
(複数回答)

収入は望めないという現状のため、高収入よりも安定した収入のほうが先に望まれているのではないかと推測できる。次いで、作業の安全性（39%）、作業の機械化（28%）、社会的地位の向上（23%）であった。現状では林業を行なう際まず満たされなければならない労働条件は保険・保障の充実であり、次には安定した収入ではないだろうか。

(2) 賃金の満足度

林業によって支払われる賃金に満足していますかという質問に対する回答は図16のようである。満足であると答えた人は就労者全体の8%に過ぎず、普通であると答えた人が33%であるが、不満であると答えた人は55%で就労者全体の半数を超えている。他産業と比較しても、条件の良い賃金とはいえないためと考えられるが、意外にも、普通と答えた人が全体の33%もいた。

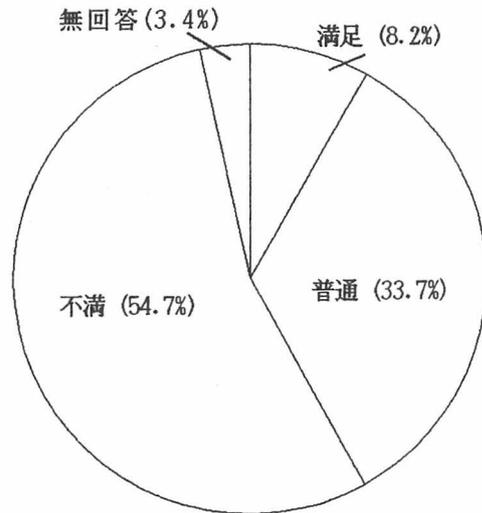


図16 林業における賃金の支払われる金額に満足していますか

(3) 保険・保障の安心度

『現在加入している保険や保障で安心して働くことができますか』という質問に対する回答は図17のようである。安心であると答えた人は就労者全体の7%に過ぎない。普通であると答えた人が43%はいるが、不安であると答えた人が46%と最も高い。また、男女別にみると、安心と答えた人は男女とも7%で同じ割合であった。普通と答えた人も男性（44%）・女性（41%）とほとんど違いはみられない。不安と答えた人も男（46%）・女（48%）とこれもあまり違いがみられない。

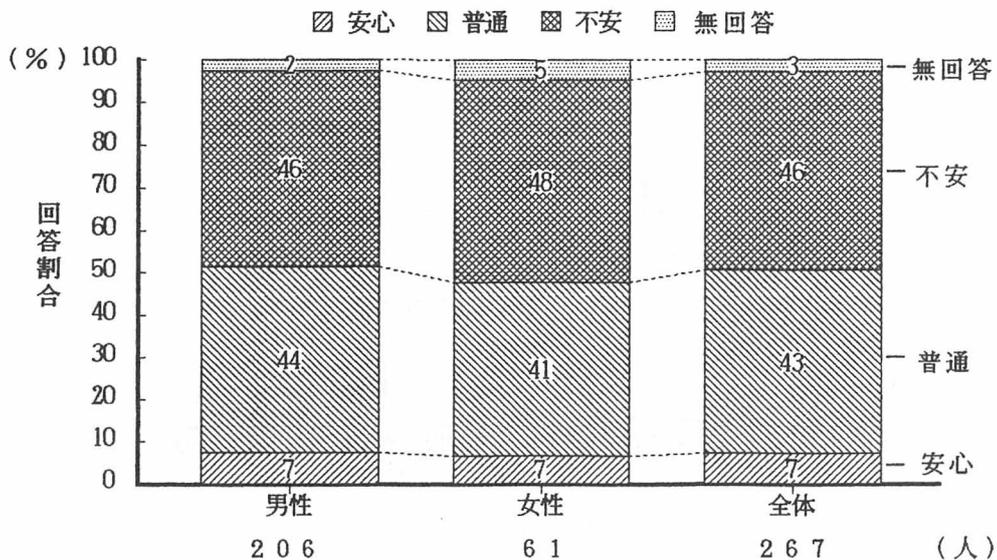


図17 現在加入している保険や保障に安心していますか

## (4) 保険・保障の安心度と年齢別の違い

保険保障の安心度と年代別の違いについての回答は図18のようである。20代、30代では現在の保険保障で安心であると答えた人はいなかった。40代以上になると1割未満ではあるが安心と答えた人がでてくる。普通と答えた人は、20代を除くと、高年齢になるに従って増えていく傾向をみせた。また、不安と答えた人は高年齢になるに従って減っていく傾向をみせている。全体として、安心と思っているより不安と思っている人の方がはるかに多い。20代では対象となる人が3人と少ないため他の年代と比較することは不適當であるかも知れないが、若い年代の新規参入者では短期雇用ではなく、長期雇用の条件や、保険・保障面も改善されてきており、不安を感じる人が少ないのではないかと考えられる。

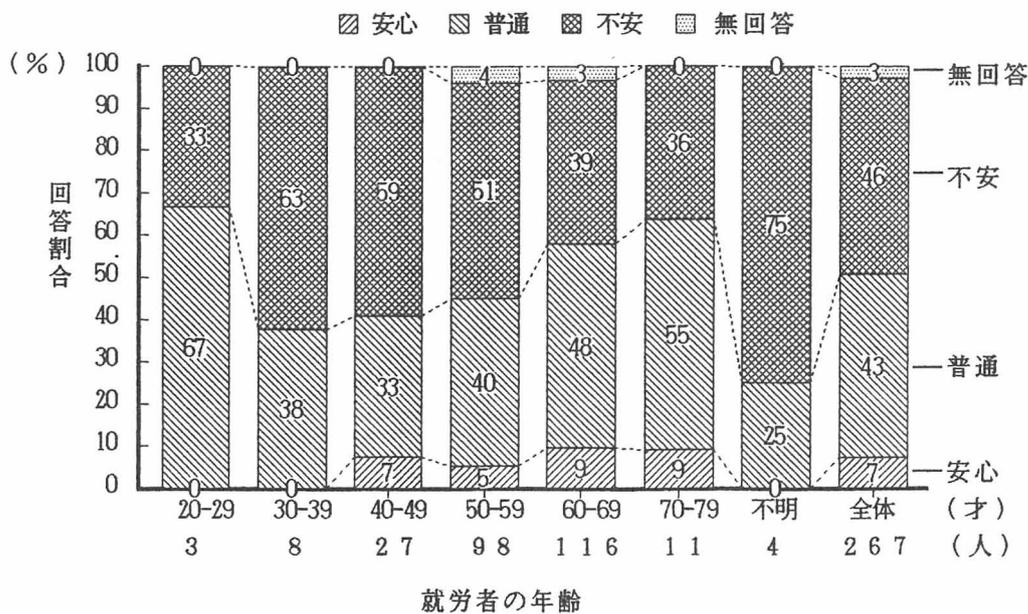


図18 保険・保障の安心度と就労者の年齢との関係

以上のことより、就労者の考える、若者にとって最も必要だと思われる労働条件に保険・保障の充実があげられている。これは現在の就労者で保険・保障に満足している人が少ないからであろうと考えられるが、しかし、普通と考えている人も多い。また、年齢が増すにつれて保険や保障への不安感も減少していく傾向にある。また、収入についても不満を持つ人は多いけれども、普通と考える人も多い。そのためであろうか、収入の多さよりも安定した収入のほうが望まれている傾向がみられた。